

諏訪之瀬島

福岡管区气象台
火山監視・情報センター
鹿児島地方气象台

爆発的噴火が発生したほか、小規模な噴火が時々発生しました。今後、御岳(おたけ)火口から半径約1 kmの範囲に噴石を飛散させる程度の小規模な噴火が発生すると予想されますので、これらの地域では噴火に対する警戒が必要です。平成19年12月1日に火口周辺警報(噴火警戒レベル2、火口周辺規制)を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

12月の活動概況

・噴煙など表面現象の状況(図1、図2)

1日～2日にかけて爆発的噴火が11回、14日～16日に10回発生したほか(11月:5回)、小規模な噴火も時々発生しました。

噴煙の最高高度¹⁾は2日及び15日の1000m(11月:600m)でした。

十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、集落(御岳の南南西約4 km)で17日に少量の降灰がありました。

・地震、微動の発生状況(図1、図2)

火山性地震及び火山性微動は消長を繰り返しながら、やや多い状態が続いています。A型地震は3回(11月:7回)、B型地震は225回(11月:334回)でした。また、火山性微動は179回(11月:248回)発生しました。その出現時間は、141時間56分(11月:83時間47分)で、時々継続時間が1時間を超える火山性連続微動が発生しました。

・御岳火口の状況(図3、図4)

6日に海上自衛隊鹿屋航空基地救難飛行隊の協力により、ヘリコプターによる写真撮影及び赤外熱映像装置²⁾による観測を行いました。火口底及び周辺に熱域が観測されましたが、前回の観測(2006年12月1日)と比べ大きな変化は認められませんでした。

3日～10日に現地調査を実施し火口の熱観測を行いました。火口及び周辺に熱域が観測されましたが、前回の観測と比べ大きな変化はありませんでした。

- 1) 2003年3月28日以降、噴煙の最高高度は監視カメラによる観測値と十島村役場諏訪之瀬島出張所の報告のうち高い値を用いています。
- 2) 赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感知して温度分布を測定する測器であり、熱源から離れた場所を測定することが出来る利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

地図の作成に当っては、国土地理院の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ(標高)』を使用しています(承認番号:平17総使、第503号)。この火山活動解説資料は、気象庁ホームページ(<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>)、福岡管区气象台ホームページ(<http://www.fukuoka-jma.go.jp/>)でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料(平成20年1月分)は平成20年2月7日に公表予定です。

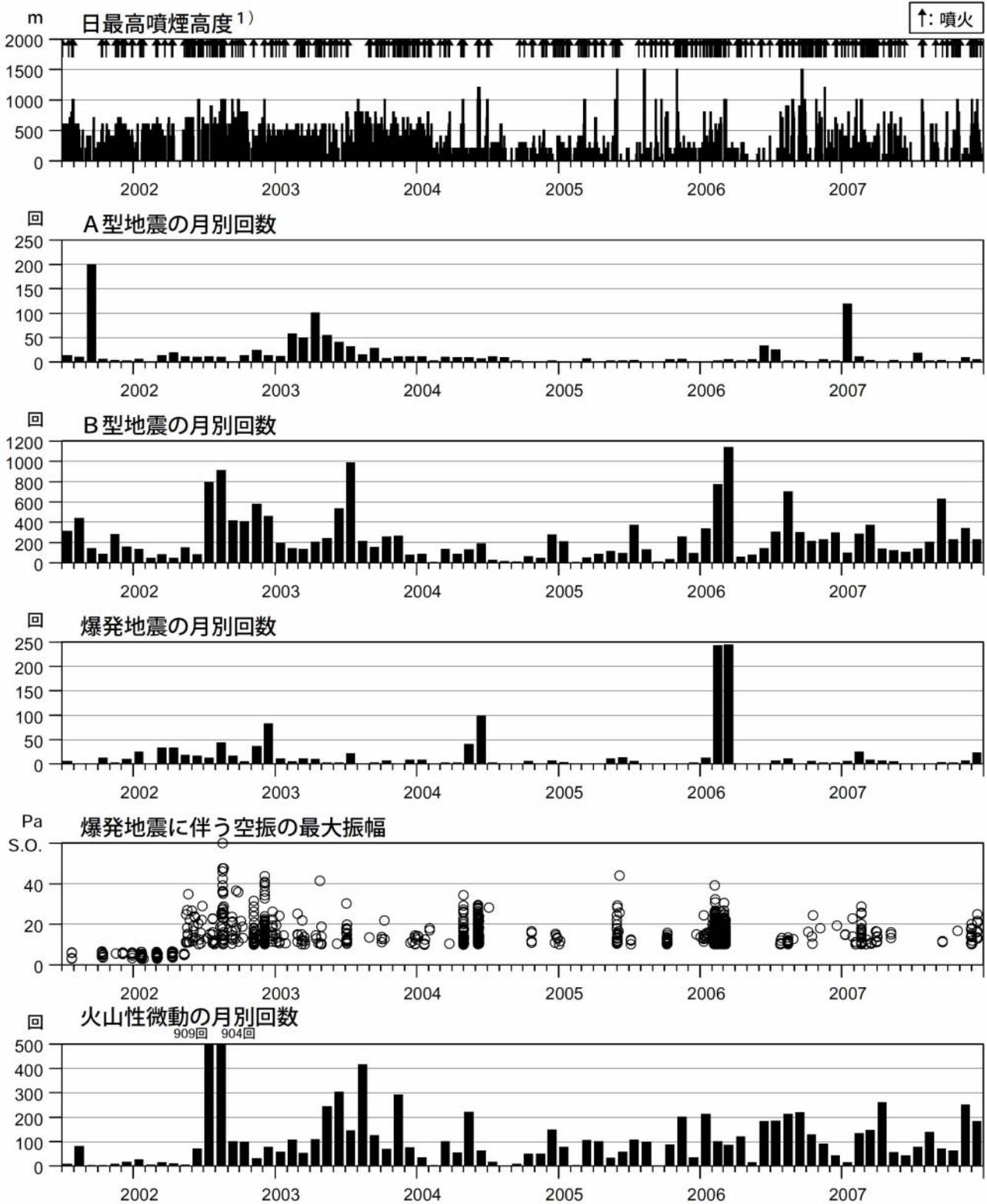


図1 諏訪之瀬島 火山活動経過図(2001年7月~2007年12月)

- ・噴火は1~2日、6日、10日、14~17日、24日に発生しました。爆発的噴火は1日に4回、2日に7回、14日に2回、15日に2回、16日に6回発生しました。
- ・噴煙の最高高度¹⁾は2日及び15日の1000mでした。
- ・A型地震は3回、B型地震は225回でした。
- ・火山性微動は179回でした。

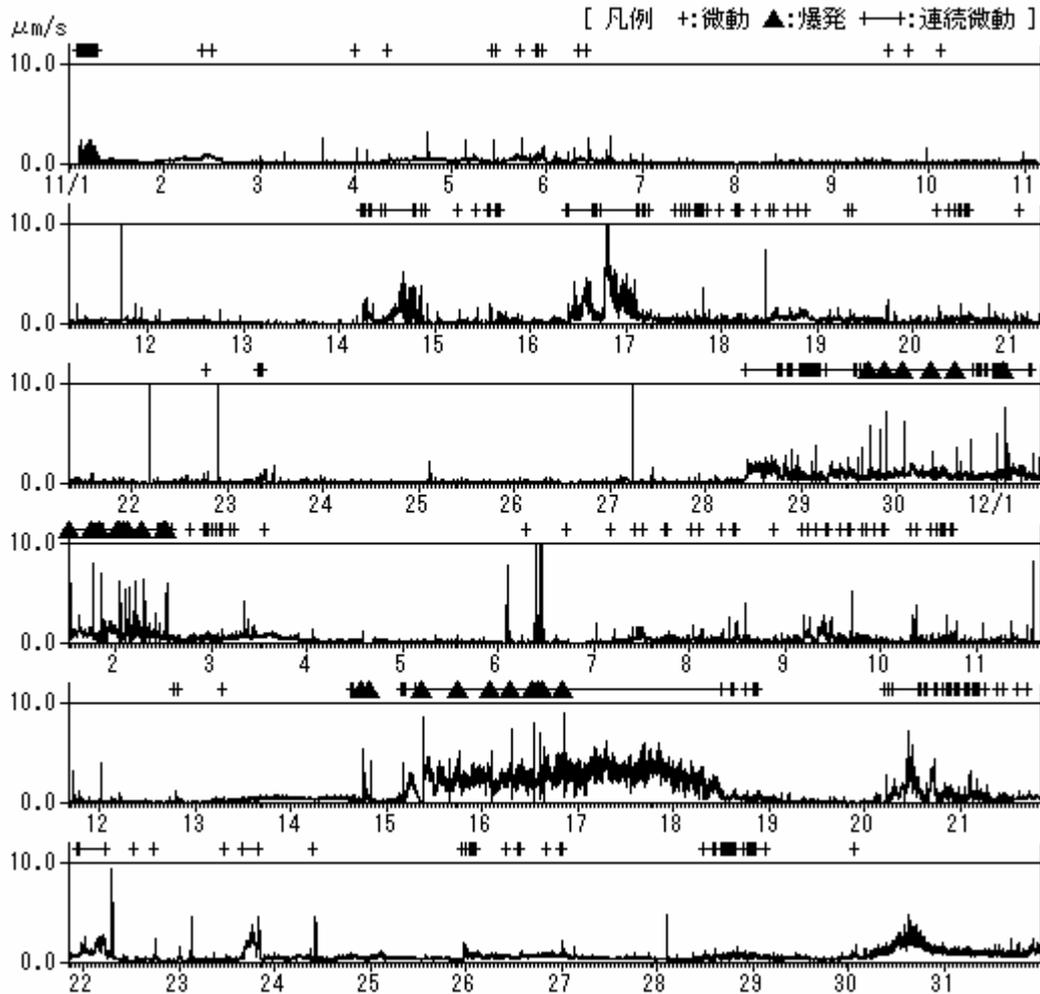


図2 諏訪之瀬島 1分間平均振幅の時間変化 (SWA1 上下成分)

(2007年11月1日~12月31日)

- ・爆発的噴火は1日に4回、2日に7回、14日に2回、15日に2回、16日に6回発生しました。
- ・火山性連続微動は、1日、2日、7日、9日、15~18日、20~23日、28日に発生しました。

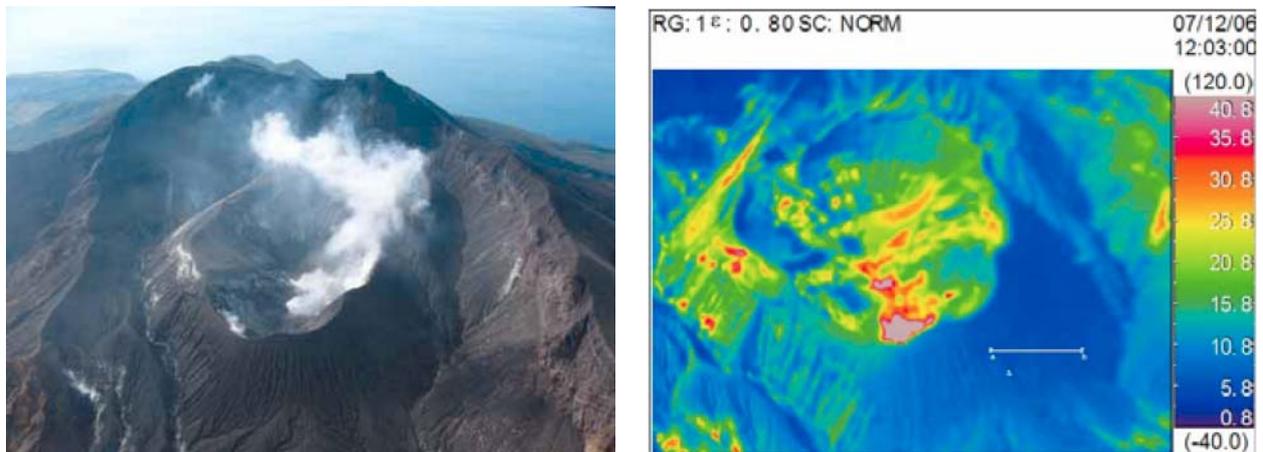


図3 ヘリコプターからの観測(北東側から撮影)

12月6日に海上自衛隊鹿屋航空基地救難飛行隊のヘリコプターから撮影
前回の観測(2006年12月1日)と比べ大きな変化は認められませんでした

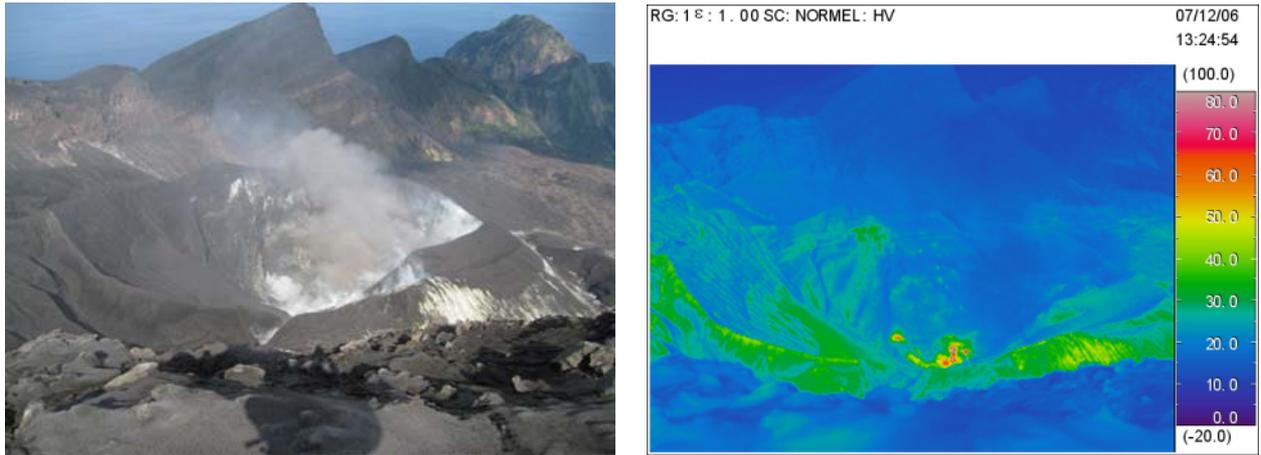


図4 機動調査観測 (火口南西側から撮影) 12月6日撮影
 前回の観測(2006年11月)と比べ大きな変化は認められませんでした。

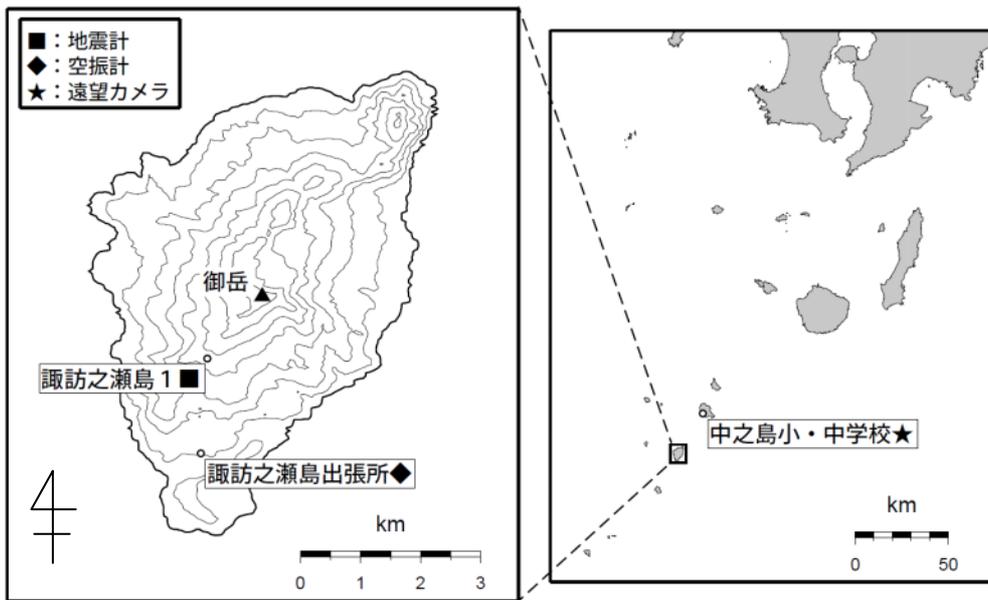


図5 諏訪之瀬島 観測点配置図